

平成 30 年度 自己点検・自己評価結果

1. 評価基準

「看護師学校養成所の自己点検・自己評価指針」に基づいて実施した。

(看護師等養成所の教育活動などに関する自己評価指針作成検討委員会まとめ)

2. 評価点

4点：よく当てはまる・・・70%以上満たしている

3点：当てはまる・・・30%～70%満たしている

2点：あまり当てはまらない・・・30%以下しか満たしていない

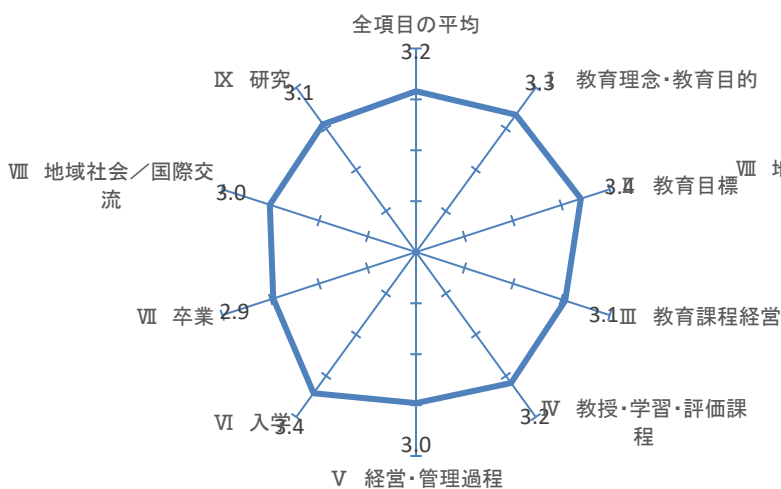
1点：当てはまらない・・・満たしていない

3. 評価者

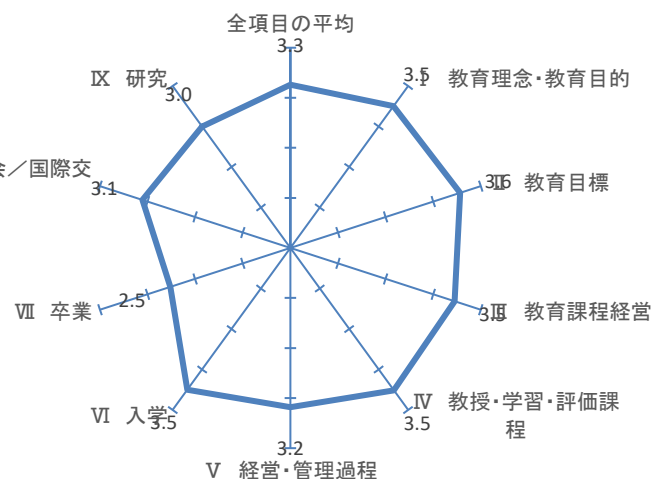
教職員全員（教員・事務）及び担当理事

4. 結果

【3年課程】



【2年課程通信制】



5. 総括

1) 平成 30 年度の主な取り組み。

①平成 29 年度の評価点が 3 未満の大項目への取り組み（VII・IX）

VII（卒業）ホームカミングディを実施し、卒後 1 年目の活動状況把握や卒後教育状況を把握。

実習調整会議や教職員による病院訪問、卒業生による職場説明会等の機会を生かした卒業後の情報交換。

IX（研究）日本看護学教育学会にて研究発表 3 件。

日本輸血・細胞治療学会（関東甲信越支部例会）ワークショップファシリテーター。

埼玉県看護協会（第 1 支部）論文査読を始めとする看護研究発表会運営協力。

OZAK 会学術集会における研究発表・座長・シンポジスト。

②上記以外の主な取り組み

大項目Ⅰ～大項目Ⅳ・・・3年課程では新カリへの移行準備としてカリキュラム評価を実施。新任教員の増加に対応して、理念・目的・カリキュラム等の考え方について共通認識を図った。2年課程通信制では平成30年度より、入学要件の准看護師として業務に従事する期間が7年以上に短縮された。これに伴い対面授業を10日間増やし、その内容の吟味や学習環境の調整を図った。

大項目Ⅴ・・・福利厚生の一環として、教職員の健康管理の徹底を図るため、胃がん健診においてABC検査・胃X線検査のいずれかを選択できるシステムに変更した。学習環境として、学内フリーLAN・タブレット貸し出しによる看護技術の動画視聴が周知され学生が活用している。図書館司書による計画的な図書・DVD購入、図書紹介、図書室だよりの発行等、図書室環境の整備が進んだ。さらに防災訓練時、防火シャッターの昇降デモンストレーションを実施した。また、自動販売機各種を増設し学生より好評である。

大項目Ⅵ・・・3年課程の入学生確保に向けて広報活動を見直し、オープンキャンパスに加え、学校説明会を開始。地域の高校訪問の回数を見直しを行った。

大項目Ⅷ・・・深谷市消防本部よりAED協力事務所認定を受けた。

2) 自己点検・自己評価は、良い学校作りを目指して実施しており、項目ごとに分析した結果を以下の3つの視点でまとめる。

(1) 評価点が3点以上で、学校として評価できる項目（Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ・Ⅴ・Ⅵ・Ⅷ・Ⅸ）

- ①Ⅰ教育理念・Ⅱ教育目的・Ⅲ教育目標・教育課程経営には一貫性があり明確な考え方と根拠をもって編成され、教育活動はもちろん学生や保護者にも周知が図られ学習の指針になっている。卒業生の特性を達成するための教育内容を網羅しており、科目、単元構成においても看護師養成に必要な実践的職業教育に取り組んでいる。
- ②Ⅳ教授・学習・評価課程では、主体的に学べるよう内容に応じて授業形態を選択し、理論・知識・技術・看護者としての対象への配慮が統合して学べるよう全教員が工夫し、進度に応じた学習支援が行われている。看護技術教育では複数教員が行うなどの協力体制がある。臨地実習も授業であるとの考え方の元、学生の基本的態度として、対象の権利尊重や安全教育を積極的に行っている。授業アンケートや多角的な授業評価を行い、教材研究につなげている。
- ③Ⅴ経営・管理課程として学生生活の支援や保護者への情報提供、保護者との協力体制強化に取り組んでいる。また、学校の特色と魅力を伝えるための広報活動は教職員が協力して行っている。
- ④Ⅵ入学は選抜方法について理念・目標との一貫性があり、入試委員会により公平性が保たれている。Ⅷ・Ⅸ地域社会と養成所の交流の機会を持っており、研究発表や学術集会への参加など、教員の研究的活動を組織として支援している。

(2) 評価点が3点未満の項目の現状と課題（大項目Ⅶ）

- ①卒業生の相談に対応して離職予防を図るなど、卒業生の抛り所としての役割を果たしているが、卒業生全体の動向を把握するに至らず、3点未満の低評価になっていると考えられる。様々な機会を活用して就職先での情報を把握する努力はしているが、情報共有や情報検討の不足により教育課程、授業等に反映するまでに至らないことが課題であると考えられる。

(3) 大項目では3点以上だが、中項目で3点未満の項目の現状と課題

①Ⅲ教育課程経営

中項目 <教育課程経営者の活動>前年度まで3点以上であったが、今年度3年課程において2点台に低下した。新任教員が増えたため周知不足が考えられる。カリキュラムについての理解を深め、一貫した教育活動への共通認識を図る必要がある。

中項目<教員の教育・研究活動の充実>教員の授業準備のための時間確保が3年課程において継続して低評価である。原因としては教員の退職等により担当領域の変更が行われ、新たな授業担当についての教材研究が十分にできないことなどが考えられる。臨地実習指導と講義、演習が重複しないよう調整しているが、学生支援に多くの時間を割いている現状があり授業準備のための余裕がないと感じているのではないか。

②Ⅴ経営・管理課程

中項目<組織体制><財政基盤><施設設備の整備><養成所の運営計画と将来構想>
組織体制・財政基盤については周知不足による低評価の可能性があるので、周知を図る必要がある。

養成所の将来構想や運営計画について展望の周知や、予算の関係上施設の経年劣化に対する整備が計画的にできているとは言い難い現状が課題である。

③Ⅷ地域社会/国際交流

中項目<国際交流>外国籍の受け入れ体制整備について特に低評価である。外国籍の学生を受け入れ地域への就業につなげているという実績や、受け入れへの準備体制があることへの周知が必要である。